

2026 年 6 月 16 日

**「術中情報の逐次統合による外傷 IVR 手技計画予測：CTA 投影像・DSA frame・凝固
プロファイルのマルチモーダル統合 AI に関する研究」**

1. 研究の対象

2016 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までの間に、当センターおよび共同研究機関において、けが（外傷）による出血に対して、カテーテルを用いた止血治療（IVR：血管内治療）を受けた方

2. 研究目的・方法

「目的」

けがによる出血に対するカテーテル止血治療では、どのカテーテルを使い、どの位置で、どのような止血の材料を用いるかといった「治療の進め方（手技計画）」を、医師がその場の画像や検査結果をもとに判断しています。この判断は医師の経験に頼る部分が多いのが現状です。本研究では、治療前の CT 検査の画像、治療中の血管造影の画像、血液の固まりやすさ（凝固）の検査結果などをコンピュータ（AI：人工知能）が統合し、経験豊富な専門医の判断とどの程度一致して治療の進め方を予測できるかを調べます。

「方法」

すでに診療の中で記録されている画像や検査結果、治療の記録などの情報を用いて、後から振り返って分析する研究です。この研究のために、新たに検査や治療を行うことはありません。

「研究期間」倫理委員会承認後～2031 年 7 月 31 日

「利用又は提供を開始する予定日」2026 年 8 月 1 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

この研究では、診療の中で得られた以下の情報を使用します。

- ・ 年齢、性別、けがの原因や重症度に関する情報
- ・ 血圧や脈拍などのバイタルサインの情報
- ・ 治療前の CT 検査の画像、治療中の血管造影の画像
- ・ 血液の固まりやすさ（凝固）に関する検査結果、輸血に関する情報
- ・ カテーテル止血治療の記録

（使用したカテーテル・治療した部位・用いた止血の材料など）

- ・ 治療の経過に関する情報

これらの情報は、お名前などの個人を特定できる情報を取り除いた状態（仮名化）で取り扱います。

4. 外部への試料・情報の提供

この研究は複数の施設が共同で行うため、各施設で集めた情報は、お名前などの個人を特定できる情報を取り除いたうえで、データの解析を担当する機関(株式会社 fcuro、京都大学大学院情報学研究科)へ提供されます。

どの情報がどなたのものを照合できる対応表は、情報を提供した各施設の中で、その施設の研究責任者が責任をもって厳重に管理します。解析を担当する機関に提供される情報は、個人を特定できない形になっています。

5. 研究組織

研究代表責任者

大阪急性期・総合医療センター 救急診療科 診療主任 岡田直己

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がございましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

大阪市住吉区万代東 3-1-56

大阪急性期・総合医療センター 救急診療科

研究責任者：診療主任 岡田直己

電話 06-6692-1201

研究代表者：大阪急性期・総合医療センター 救急診療科 岡田直己